

2014 年 1 月 24 日
日本学生観光連盟
これからの観光教育学生会議

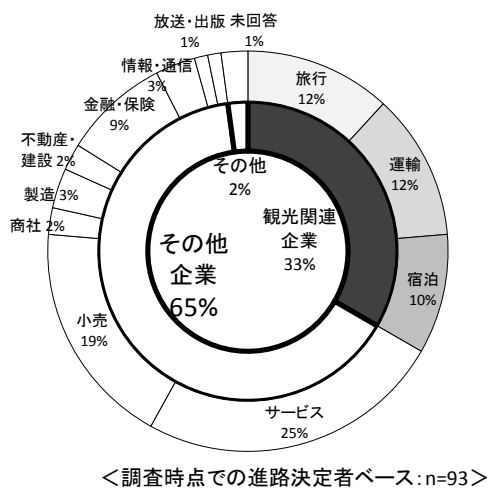
観光系学部・学科 4 年生に聞く！
「観光教育と進路選択についてのアンケート」調査結果

- トピックス①** 観光業界へ行かない学生の 7 割は「行きたくても行けなかった」のではなく「志望しなかった」。就活の結果に 9 割近くが「満足」
- トピックス②** 就職活動時の強み「熱意」「ホスピタリティ」に多くの同意
悩みは「企業側の観光学の認知度低い」「観光業界中小企業、情報少ない」
- トピックス③** 自分の大学の観光系学部・学科「高校生に勧めたい」が 8 割
ただし、「観光業界に進むとは限らない」の声多数
- トピックス④** 観光教育に対して思うこと「大学で観光を学ぶ意義、明らかにして」

日本学生観光連盟「これからの観光教育学生会議」では、観光系学部・学科に所属する
大学 4 年生を対象に、就職活動時点の意識や 4 年間の大学生活に関する調査を行いました。
(回答期間：2013 年 9 月 23 日～10 月 27 日 有効回答数：120)

トピックス① 観光業界へ「行きたくても行けない」のではなく「志望しない」

●回答者の卒業後の進路



その他企業へ進む学生 60 名に聞いた。

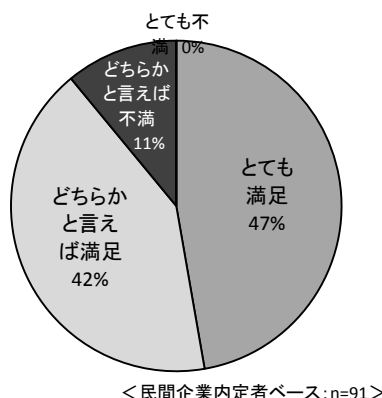
●その他企業は第一志望だったか（単一回答）

	人数	割合
第一志望だった、かつ、観光関連企業は一社も受けなかった	19 人	34%
第一志望だった、ただし、観光関連企業も受けていた	21 人	37%
第一志望ではなかったが、観光関連企業の選考に通らなかったためその他企業へ行くことになった	16 人	29%
その他（第一志望は決めていなかった、など）	2 人	3%
未回答	2 人	3%
合計	60 人	100%

「その他企業
が第一志望
だった」
計 **71%**

※「観光関連企業を第一志望にしなかった理由」を報告書に掲載しています。

●就職活動の結果にどの程度満足しているか



「観光業界へ進む観光系学生はたった 1 割※」－観光系学部・学科は学生の就職に関して、しばしばこの数字を用いて批評される。「1 割」という数字は事実として、では学生は、観光業界へ【行きたくても行けなかった】のか【行きたいと思わなかった】のか、内訳はどうなのだろうか。

その他企業に就職が決まっている 60 名の学生のうち、【その他企業が第一志望だった】を選んだ学生は 40 名であるのに対し、【観光関連企業に行けなかったためその他企業へ行くことになった】を選んだ学生は 16 名であった。割合で言えば 7:3。【行きたいと思わなかった】学生の方が多い。

また、民間企業へ就職予定の全ての学生に「就活の結果（＝内定先企業）」にどの程度満足しているかを聞いたところ、9 割近くの学生が「満足」「どちらかと言えば満足」を選択している。

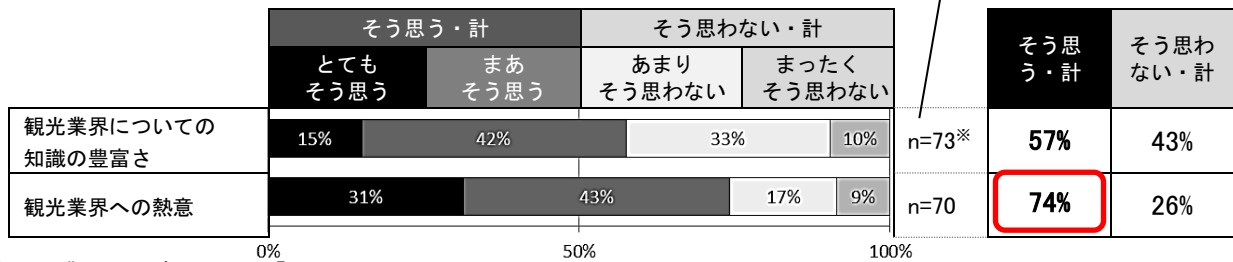
産学官においていろいろな議論や批判はあれ、当の学生はそれぞれが自分の中で納得して就職活動を終え、巣立って行くようである。

※出典：観光庁 厳密には「12.2%」。2008 年～2010 年の 3 年分の卒業生の進路を集計したデータ。

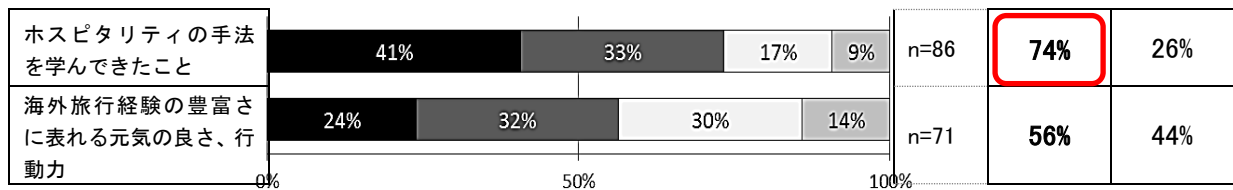
トピックス② 就職活動時の強み「熱意」と「ホスピタリティ」に多数票 悩みは「企業側の観光学の認知度低い」「観光関連企業、大手は通らず中小は情報少ない」

●就職活動時アピールになったこと

【観光関連企業の選考において】



【全ての業界の選考において】

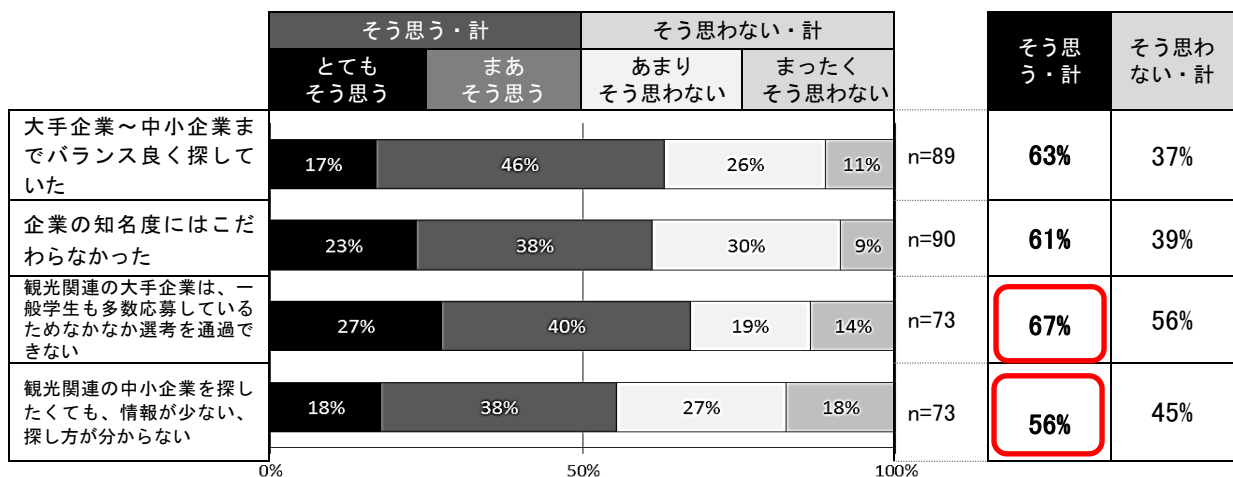


観光業界の選考においては、観光に関する知識よりも、4年間学んだうえでの業界への熱意がアピールになったとの回答が多い。また、「ホスピタリティの手法」については、接客業を中心に様々な業界で需要のある知識であることから、多く票を集めた。

その他自由回答で寄せられた「強み」()内は内定先業種

観光学の知見
・観光学と言うと旅行斡旋やホテルマンを想像されがちだった。しかし、観光学で学んだのは、そこにある魅力的な資源を活用して多くの人を動かすということだとアピールするようにしていた。(女性・小売)
・観光についての学習は、観光のみならず様々な業種に活用できるものが多いです。私は接客業を主な仕事とする企業を多く受けていたので、自分が学んできた観光学を実際の接客の場でどう活かしていくかをアピールしました。(女性・小売)
フィールドワークでつけた人間力
・ゼミの合宿で、フィールドワークを多く経験してきたので、積極性があることや異文化に理解があることはアピールした。(女性・旅行)
地域活性化に携わった経験
・大学や地域の方、行政と連携して大学のある地域の活性化について学び活動したこと。(女性・旅行)

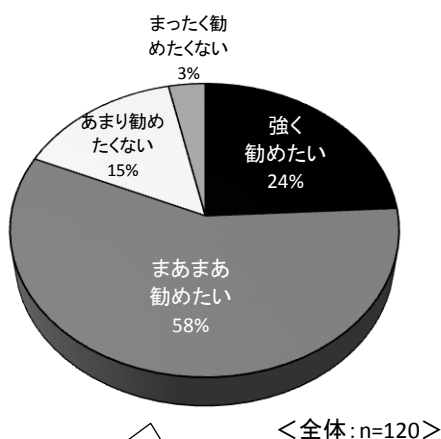
●就職活動で感じた悩み ※多く同意を得たもののみ掲載しています



その他自由回答で寄せられた「悩み」

企業側の観光学の認知度が低い、その他企業で話が通じない
・企業側の観光学という学問自体の認知度が薄い。観光業界の企業に行けば観光業についてどこまで知っているのか試されるような質問をされ、その他企業に行けば志願度が低いように思われる。就活をするうえでやりにくい学部だと感じた。(女性・小売)
・その他企業に魅力を感じ、自分の学んだ観光学はオンリーワンの視点でその企業に活かせると思ったが、相手からは「旅行業界に行けばいいのに」の一点張り、自分の熱意は思うように伝えられなかった。(女性・旅行)
旅行を仕事にするのはどうなのか
・趣味としての旅行業は大好きだが、旅行業を仕事としてするのはどうなのかと悩んだことがあった。(女性・ブライダル)
・自分の好きなことを仕事にするのが幸せだと思うが、好きなことを仕事することで、旅行が嫌いになりそうだった。(女性・物流)

トピックス③ 観光系学部・学科「高校生に勧めたい」が…



「勧めたい」が8割を超えた。観光系学部・学科の満足度は高いと言えるのではないかな。少なくとも入ったことを後悔している学生は少ないようだ。

ただし、「強く勧めたい」は24%にとどまり、その理由として「観光業界へ就職するとは限らないから」が多く上がった。

勧めたい理由

観光産業は成長する

・今後、東京オリンピックもあって、観光は注目されるから。そして日本の観光はまだまだ成長産業であるから。(H 大学・女性) ・観光は、景気も回復しつつありオリンピックの開催も決定した日本では伸びていくであろう業界であること。また、海外からの留学生との交流を多く持つことができるので視野を広げやすいと感じるから。(I 大学・男性)

ホスピタリティを磨ける

・知識だけではなくホスピタリティなども身につけることができ人として学べることが結構あったため。(B 大学・女性) ・たとえ観光関係の職業に就かなかったとしても、人との接し方などを学べる。(J 大学・男性)

学問として面白い、幅広い

・全ての学問に広く、浅くリンクしているので気になった分野を好きのように掘り下げられるから。(I 大学・男性) ・特定の分野に進みたい人は別として、観光学部はいろんな学問に触れる機会があるので、「正直なところなにを学びたいかわからない!」という高校生にとってはかなりお得な学部だと思う。そういう意味では、この学部はおすすめできる。(M 大学・女性)

勧めたいが、観光業界へ進むとは限らない

・学問として学んでいて楽しかったが、観光を学んだ者の多くがさほど関連性のない他業種に就くことを考えると、大学で学んだことがそのまま社会において役に立つかと言えば少しばかり疑問であるため。(M 大学・男性) ・観光の分野に興味があるのであれば、進学後興味深い体験や勉強が出来ると思う。しかしその経験を通してこの分野に失望することもあり、その場合、4年間大学で学んできたことはまったく関係の無い職業につくことになる。(M 大学・女性) ・観光学は他学部に比べ、身近で面白い講義が多いように思うから。ただし、マイナス面も知ることになるので、逆に観光業界に就職する可能性が低くなってしまふかもしれない点を踏まえ、「まあまあ勧めたい」と思った。(M 大学・女性)

トピックス④ 観光教育に対して思うこと『大学で観光を学ぶ意義、明らかにして』

観光教育に対する意見として、大学で観光学を学ぶ意義や、一般社会への応用の仕方を明らかにしてほしいというコメントが寄せられた。

- ・日本の大学教育において、未だ「観光学」の概念がはっきりしていないことが、学ぶ側は不安に感じた。(A 大学・女性)
- ・大学で観光学を学ぶ意義を明らかにしてほしい。教授の経験談を聞いたり、自分で調べればわかるような内容を学ぶだけでは、4年間の学びに誇りをもてない気がする。(J 大学・女性)
- ・観光学の社会への応用の仕方。観光学を大学で学んだ後、他業界でその学びを活かしている人のお話を聞く機会がほしい。そうすれば、たとえ観光業界へ進まなくても観光を学ぶことへの意義が持てると思う。(M 大学・男性)
- ・ゲストスピーカーの方からのお話は貴重だし面白いと思うが、どうしても就活の際の企業説明会に来ている感覚。(I 大学・女性)
- ・観光学はまだ若い学問であるため、経済学や心理学からそのノウハウを借りてきているという印象が強い。観光経済学や観光心理学という学問に分歧し、細分化することもあるので、より全体的に観光について学ぶ講義がほしい。イントロダクションである観光学概論ではなく、各分野の専門性を結びつける包括的な講義があると理解が深まると思う。(M 大学・男性)

調査概要

調査主体：日本学生観光連盟「これからの観光教育学生会議」

(調査の企画から集計までの一連の作業は、全て学生のみで行っています。)

調査対象：国内の観光系学部・学科に所属する大学4年生(日本人)

調査方法：インターネット調査

調査期間：2013年9月23日～10月27日

有効回答数：120(男性26、女性94)

お問い合わせ先

これからの観光教育学生会議 kankokaigi@gmail.com

※ダイジェスト版は、調査結果のごく一部です。詳しくは、報告書をご覧ください。
※各大学の対外的評価に影響を与えてしまうものであるため、大学名は伏せて掲載しています。ただし、調査結果を各大学へフィードバックする際には、その大学のアルファベットは分かるように明示した上で送付いたします。